

ほくろくどう 古代北陸道（三日市A遺跡）

三日市A遺跡は、三日市町のほぼ全域と二日市町の一部に広がる広大な遺跡で、2000年（平成12）より発掘調査を実施し、縄文時代・弥生時代・古代・中世にわたる集落遺跡が発見されています。

古代において特筆すべきは奈良・平安時代に機能した官道（国家によって整備・管理・維持がなされた道路）のひとつである古代北陸道が確認されたことです。路面幅は8mで、両端には側溝が設けられています。調査により総延長約530mの区間が確定されました。また、確認された古代北陸道の約150m北西には8×2間の大型掘立柱建物たてばしらたてものが発見され、建物の向きも北陸道に対して平行であることから密接な関係があると考えられます。建物の規模が極めて大きい

ことから一般的な建物とは考えにくく、公的施設と推測されています。

これらの発見は古代交通史を考察するのに大変貴重であるといえます。県内ではこの他にも能登国と越中国への分岐点となる津幡町加茂遺跡かもや、旧国道8号に並走する形で確認された金沢市観法寺遺跡かんぼうじなどで北陸道が報告されています。





人が立っている箇所が路面です。 東より 2003年（平成15）



8×2間の大型掘立柱建物 北西より 2005年（平成17）